

平成 28 年度COC事業フォローアップアンケート

文部科学省は各大学が実施する「地（知）の拠点整備事業」のフォローアップの1つとして平成26年度事業分からアンケートを実施している。そのアンケートに合わせて、本年度も「平成28年度フォローアップアンケート」を実施した。

アンケート調査項目には【教育活動の状況】、【連携自治体からの支援の状況】および【連携自治体や企業等からの相談状況】と【当該大学等の全学生を対象に実施】、【当該大学等の全教員を対象に実施】および【当該大学等の全職員を対象に実施】する項目があり、調査項目には文部科学省統一指標と各大学が独自に加えることができる項目があった。

ここでは、文部科学省統一指標項目の結果に加え、全学生、全教員および全職員を対象にして行ったアンケート調査について、ページ数の関係で回答結果のみを示した。

なお、アンケートは鹿児島大学学術情報基盤センターの協力を得て、平成29年5月8日（月）～5月25日（木）にWebで行った。

1. 文部科学省統一指標

アンケート対象者(基礎データ)		
全学生数	8970	
有効回答数	2716	
割合	30.3%	
全教員	1156	
有効回答数	368	
割合	31.8%	
全職員	585	
有効回答数	338	
割合	57.8%	
全連携自治体	4	
有効回答数	4	
割合	100.0%	

アンケート結果の集計		
教育活動の状況		
1. 地域志向科目※を何科目設置していますか。現在開設している科目数と、平成28年度新規に開設した科目数をそれぞれお答えください。		
現在開設している科目数	30	科目
うち、平成28年度新規に開設した科目数	2	科目
2. 地域志向科目にアクティブラーニングを導入している科目を何科目開設していますか。		
アクティブラーニングの科目数	17	科目
当該科目の履修者数(実数)①	1782	人
当該科目の履修者数の全学生に対する割合 (当該科目の履修者数①/全学生数)	19.74	%

連携自治体等からの支援の状況						
1. 大学COC事業を進めるにあたり、連携する自治体や企業等とのコストシェアの状況についてお答えください。						
①人的支援について						
		教員			職員	その他
		教授	准教授	講師		
	自治体		1人		1人	68人
	企業等					9人
②物的支援について						
	自治体	①地域志向教育研究費助成対象事業実施に必要な施設・資料の無償提供 ②進取の精神チャレンジプログラム採択団体の活動紹介展示スペースの無償提供 ③「大学と地域」講義での資料・パンフレット・冊子の提供 ④自治体所有施設3箇所を無償で貸与				
	企業等	地域教育・研究・交流の拠点として所有施設5箇所を無償で貸与				
③財政的支援について						
	自治体名				金額	
	薩摩川内市(「大学と地域」への出張旅費)				13,200 円	
	企業等名				金額	
					円	
連携自治体や企業等からの相談状況						
地域との連携強化に資する組織により(又は当該組織を通じて)連携自治体や企業から受けた相談件数をお答えください。						
連携自治体からの相談件数		153 件				
	鹿児島県	51 件				
	鹿児島市	80 件				
	薩摩川内市	9 件				
	与論町	13 件				
企業等からの相談件数		298 件				
	うち、大企業	35 件				
	うち、中小企業	111 件				
	うち、小規模企業	12 件				
	うち、その他	140 件				

「平成28年度COC事業フォローアップアンケート調査結果」

最終結果（平成29年5月25日締め切り）まとめ

学生（学部）	1年			2年			3年			4年		
学部	在籍者	回答者	回答率	在籍者	回答者	回答率	在籍者	回答者	回答率	在籍者	回答者	回答率
法文	427	302	70.7	410	78	19.0	416	88	21.2	522	75	14.4
教育	219	71	32.4	294	52	17.7	283	61	21.6	353	64	18.1
理学	194	157	80.9	192	54	28.1	250	54	21.6	194	40	20.6
医学(医)	110	81	73.6	108	17	15.7	120	18	15.0	122	32	26.2
医学(保健)	120	55	45.8	123	22	17.9	127	25	19.7	128	29	22.7
歯学	54	24	44.4	52	12	23.1	56	21	37.5	45	13	28.9
工学	516	367	71.1	529	79	14.9	519	86	16.6	459	93	20.3
農学	221	206	93.2	209	64	30.6	215	32	14.9	252	42	16.7
水産	147	65	44.2	144	33	22.9	159	50	31.4	150	21	14.0
共同獣医	31	35	112.9	32	4	12.5	33	4	12.1	34	8	23.5
合計	2039	1363	66.8	2093	415	19.8	2178	439	20.2	2259	417	18.5
未回答者	676			1678			1739			1842		

教員（最終；290525）			
所属	在籍数	回答数	回答率
法文（含司法政策）	92	41	44.6
教育*（含院）	85	31	36.5
理学*	74	21	28.4
医学*（含院）	245	60	24.5
附属病院	180	24	13.3
歯学*（院）	89	22	24.7
工学	120	32	26.7
農学*（含院）	80	56	70.0
共同獣医	44	9	20.5
水産	51	27	52.9
学内共同施設等*	87	36	41.4
臨床心理学研究科	9	9	100.0
計	1156	368	31.8
未回答者	788		

		5年			6年			合計		
在籍者	回答者	回答率	在籍者	回答者	回答率	在籍者	回答者	回答率		
	1	-		1	-	1775	545	30.7		
	2	-		1	-	1149	251	21.8		
	-			-		830	305	36.7		
124	11	8.871	115	18	15.65	699	177	25.3		
	1	-		-		498	132	26.5		
46	9	19.57	55	19	34.55	308	98	31.8		
	3	-		4	-	2023	632	31.2		
0	5	-	3	2	66.67	900	351	39.0		
	2	-		1	-	600	172	28.7		
31	2	6.452	27		0	188	53	28.2		
201	36	17.91	200	46	23	8970	2716	30.3		
165			154			6254				

職員（最終；290525）			
職種	在籍者	回答者	回答率
事務系	428	284	66.4
技術系	131	39	29.8
その他*	26	15	57.7
計	585	338	57.8
未回答者	247		

その他*医療系のうち看護師を除く、教務職員4、特任専門員19を含む

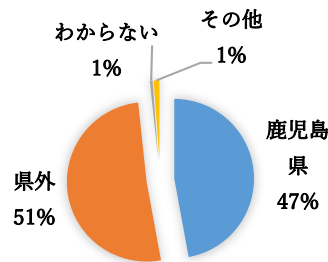
(参考) H.27年度事業アンケート結果			
	日	5月18日	
	時刻	最終日	
H.28総数	区別	有効回答数	率
9025	学生	1486	16.5
1150	教員	451	39.9
581	職員	282	48.5

学生アンケート

【1】あなたの出身（出生地）について、当てはまるもの1つを選んでください。

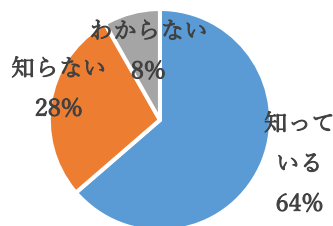
‘その他’を選択された場合は、表示される空欄にご記入下さい。

- ① 鹿児島県
- ② 鹿児島県以外
- ③ 分からない
- ④ その他



【2】鹿児島大学が、「地域のための大学」として 地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。

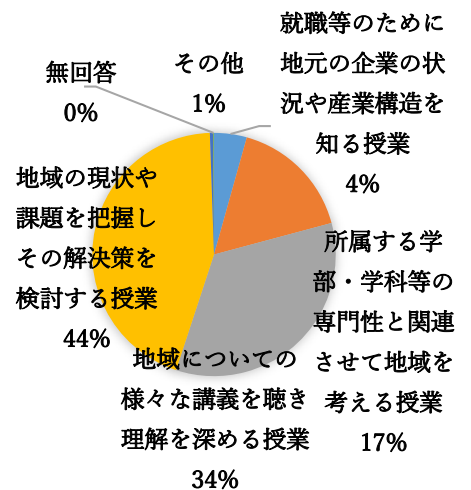
- ① 知っている
- ② 知らない
- ③ わからない



【3】「大学が地域のために実施する授業科目」という言葉から、どのような授業をイメージしますか。あなたのイメージに最も近いものを選んでください。

‘その他’を選択された場合は、表示される空欄にご記入下さい。

- ① 地域についての様々な講義を聴き理解を深める授業
- ② 地域の現状や課題を把握しその解決策を検討する授業
- ③ 所属する学部・学科等の専門性と関連させて地域を考える授業
- ④ 就職等のために地元の企業の状況や産業構造を知る授業
- ⑤ その他



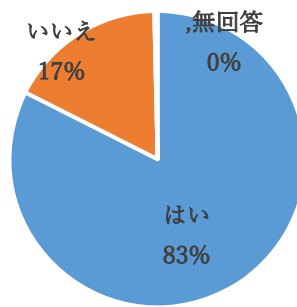
⑤その他

「体験実習」「興味が持てない」「他県出身民をもっと尊重してほしい」「講義だけでなく、体験をする」「目的意識がはっきりしない」「離島実習」「他分野の大学院に必須な情報がある」「地域課題の発見」「題への解決策を議論するだけでなく、際に現場に出て実践する授業」「地域実習」「企画を立てる」「大学と地域の関係性やつながり」(順不同)

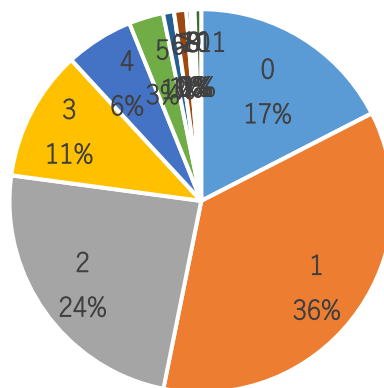
【4】鹿兒島大学が「地域のための大学」として実施する授業科目（下表参照）を受講したことがありますか。

注) この下に表が出てくる

- ① はい→「はい」を選択すると次の選択項目から【7】の選択項目に飛ぶ② いいえ

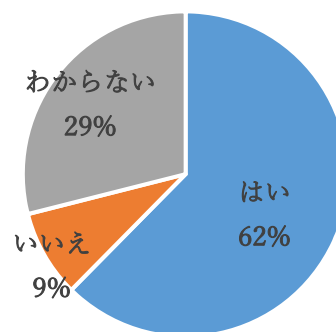


【 】「地域のための大学」として実施する授業科目のうち、受講したことがある科目数を選択してください
以下からひとつだけ選んで下さい（回答欄：1～10および11以上）



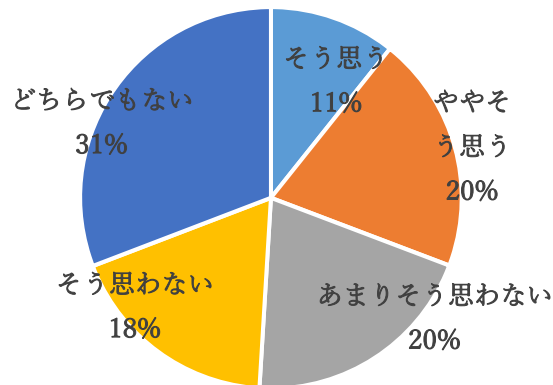
【5】上記科目を受講した結果、課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域の課題解決に役立つ知識・理解・能力は深まりましたか。

- ① はい
② いいえ
③ わからない



【6】上記科目の受講が、大学のある地域（鹿児島県）の企業や自治体等に就職しようとするきっかけになりましたか。

- ① そう思う
- ② ややそう思う
- ③ どちらでもない
- ④ あまりそう思わない
- ⑤ そう思わない



【7】その知識・理解・能力を今後どのように活かしていきたいと思えますか。（自由記述）

例）・地域活性化のイベント等に積極的に参加しようと思う

- ・地域の企業等に就職し、知識を還元しようと思う
- ・何も変わらない

ここに回答を記入して下さい：(250文字以内)

回答総数=917件、下記（主要なもの）

【代表的な意見(まとめ)】

- ・特に無い。(多数)
- ・何も思わない。何も変わらない。何も分からない。これから考えたい。(多数)
- ・自分のために使う。子供に伝える。
- ・地域について正しい認識を持ち、地域の発展に貢献したい。(多数)
- ・思考能力を高めて、これからの学習・研究や就職先選択(就活)に生かしたい。(多数)
- ・起業するきっかけを追究する助けにしたい。
- ・鹿児島県内に就職し、授業で得た知識を応用して社会に貢献する。
- ・県外出身だが、鹿児島県の就職も選択肢に入れて考えるようになった。
- ・地元に戻って働く際に、鹿児島で学んだことを応用していきたい。
- ・島である地元はこの知識を持ち帰り、島の人たちと共に活性化を図りたい。
- ・島のしくみでならなかったことを、地元の長崎に反映させていきたい。
- ・地域に就職(教員、医師、県庁、自治体、起業など)に就職して地域に役立ちたい(多数)。
- ・地域に根ざした医療、教育、企業などについての知識と理解をさらに深め、自分の生きる。
- ・地域キャリアデザインを受講しているので、地域に何か貢献できる仕事に就きたい。
- ・県内でも県外でも、就職した後自分の地元のことをしっかり人に話せるようにしたい。
- ・鹿児島を含む全国の諸地域にある課題解決への手がかりとしようと思う。
- ・(地域の)イベント、ボランティアなどに積極的に参加して地域発展に貢献したい。(多数)
- ・鹿児島について知ることで、他の様々な地域へ行った際に、比較し、鹿児島の魅力(観光など)を発信したい、またその比較したことを将来鹿児島に還元し鹿児島の発展に貢献したい。(観光地選びの参考にしたい)、(奄美大島などいろんな島に行ってみたい)。
- ・鹿児島という枠ではなく、様々な場所で活かしたい。鹿児島だけの範囲で考えるには、講義内容がそこまでローカルな

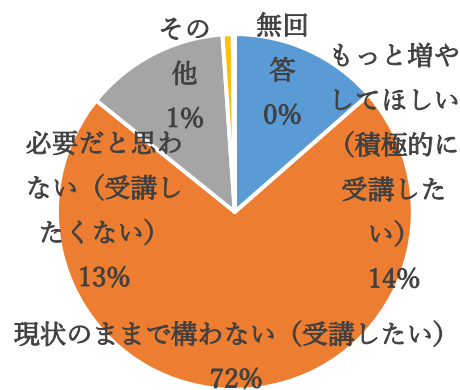
内容ではない。

- ・学部の専門知識と絡めて、環境問題・社会問題に対して解決策を模索していきたい。
- ・いのちと地域を守る防災学を受講し、防災士の資格を取得できたので、今後活かしたい。
- ・地域の農業問題、環境問題などに取り組んでいきたいと思う。
- ・地域をより深く知り、それを海外に発信したいと思う。
- ・「焼酎」を受講しているので 飲み会などで ちょっとした会話で使いたい

〔8〕あなたは「地域のための大学」として実施する授業科目についてどのような考えを持っていますか。
‘その他’を選択された場合は、表示される空欄に具体的にご記入ください。

以下からひとつだけ選んで下さい。

- ① もっと増やしてほしい（積極的に受講したい）
- ② 現状のままで構わない（受講したい）
- ③ 必要だと思わない（受講したくない）
- ④ その他（回答総数：25件）（下記、全件記載）



④その他

(25件全部)「どうでもいい」「わからない」「関心があまり無い」「減らして欲しい」「単位は取得し終えたので、どちらでもかまわない」「今のままでは受講する意味はない」「もう少し話題を絞って多くの人に同じ話題を取り組ませたほうが良いと思う」「現状は講義の種類が多すぎる」「もっと実践的なものにしてほしい、」「もっと地域に密着した講義があってほしい」「もっと魅力的な授業なら参加したいと思うが、現状のままなら参加したいとは思わない」「興味があるのはあったが抽選のため受講できなかったのもそれはなくして欲しい」「抽選はやめてほしい」「現状のままで構わない(受講したいとは思わないが、受講したくないとも思わない)」「現状のままで構わないと思うが、受講はしない」「講義によっては何のためにあるのかわからないものや、成績の付け方が曖昧なものもあるように感じています。興味があれば、本当に価値のあるものになると思いますが、先生方と大学を運営していく側の連携がうまく取れず、教授陣もよくわからないまま講義が進行されるような科目であれば無くすべきです。学生側も混乱しています。ただ、中には本当に素晴らしい講義があり、共通教育の在り方に基だ疑問を持っていた僕自身考えを一部改めさせられました。運営していく側も大変だと思いますが、これ以上科目を増やす必要はないと思います」「今まで以上の興味を持てたかは分からないが、興味を持った人もいると思う。自己満足に完結している印象が非常に強い」「受講してみたいと思うが、授業をしても特に何も変わってないと思う」「数が多く感じる。・大学は学問をするところであって、地域を第一に考えるのは違うと思う。しかし、その内容が学問に沿い、それをさらに深められるのであれば大歓迎」「地域に残ることを強制されているような気がする」「地域に就職しようと思っている人にとっては必要」「地域の理解には十分な内容と思いますが、課題解決を考えるには、授業で地域の現状などを説明してもらっただけでなく、その地域を一度見る必要があるのではないかと思います」「いくつか該当の授業科目を受講しましたが、写真があってその写真を説明されるだけでは、その写真の場所と地域の人々や経済流通的な関わりが見て取れないと思うからです」「特に社会人の方などと受ける授業では、積極的にお話をする機会がほしい」(順不同)

〔9〕あなたは「地域のための大学」としてどのような授業科目があればいいと思いますか。授業で取り扱われるテーマや授業方法など、具体的にご記述ください。(400文字以内)

回答総数：747件、下記（主要なもの）

【代表的な意見(まとめ)】

- ・特に無い(多数)。
- ・分からない(多数)。
- ・現状のままで良い(多数)。
- ・地元での就活に役立つ授業。
- ・就職に結びつけたり、鹿児島にばかり執着するのではなく、事例として鹿児島を取り上げて、他の地域などでも応用できるような教育をしてほしい。
- ・県外に就職を考えている人にとってはあまり有意義な時間を感じていない人も多数いると思います。これからの鹿児島の事を考えるのであれば、そうした人たちが将来鹿児島に残って働きたいと考えを改めるような、鹿児島に大学の卒業生を留めておけるような(講義の進め方等において)魅力のある授業をして頂けたらと思います。
- ・入学時から、「鹿児島で働く」ことを意識できるような授業。しかし、ただ鹿児島のことだけじゃなくて、他県のことも知りたい。比べるものがないと、良いものでも良いと思えない。
- ・就職活動時の企業研究も兼ねて、県内企業と共同でワークショップ等を実施して、課題発見、連携の取り方、目的達成方法について考える授業。
- ・「地域と仕事」という授業科目があればよいと思う。今までのような講義で鹿児島に関する知識を身につけたとしても、私達はそれを生かすことが出来る仕事をあまり知らない。よって、鹿児島で鹿児島の為に働く人々を毎回の授業に招き、講義していただく授業があればよいと思う。そうすることで、地域の為に仕事をしたい学生の、職業選択の幅が広がるだろう。
- ・大学の地域貢献(地域における大学の役割)を知ることのできる授業(ゼミなどでも)。
- ・地域の現状、歴史を伝えるだけではなく、研究機関として何ができるか、何をしているか、また、鹿児島大学の各学部を出て何をできるのか1年生のうちから知っておけるような授業があってほしい。
- ・地域産業、まちづくり、地域おこしなど地域のことを深く知るとともに地域の活動に参加をしていくような科目。
- ・南北 600km もある鹿児島の様々な地域について良いところも悪いところの含めて知る授業(実際、大隅半島や島嶼についての情報は少ないように感じるので、屋久島や奄美群島などの離島の自然や歴史、経済、島嶼部における防衛など)。背景に何があってそれに対して地域住民としての自分達一人一人に何ができるのか、社会人になってから何をしなければならぬのかを考える授業。
- ・鹿児島探訪、鹿児島特有のもの(桜島、焼酎、錦江湾等)に焦点を当て、実際に体験ができる授業。地域に根ざした文化や自然について自分で調べたり、ほかの人の話を聞いて知識を深めるような科目。
- ・例えば地域の伝統食を実際に作って食べる授業など、実際に体験するのが一番いい。
- ・鹿児島の地域活性を目指しているのであれば農業や産業など鹿児島の現状の問題を見つけ解決するという実践的な講義がよいと思います。実際農家や企業に行って話を聞くという体験もあつたら良いと思います。鹿児島の魅力を知って欲しいだけなら傍聴のみで良いと思います。外部からの講師を招くことで見聞を広げられるかと思います。
- ・単に鹿児島を鹿児島として知るのではなく、日本の中の鹿児島として、または世界の中の鹿児島として、より大局観を意識した授業科目があればいいと思います。テーマは無数にあるので個々を挙げることは難しいですが、全体の大筋としては鹿児島が、様々な分野において、まさに先取の気風によって、全国的、または世界的に注目に値する県(多分野において他をリードできるような先進的な県)になるため、現在抱えている問題点や矛盾点、あるいは取り組まれている工夫や活動について興味・関心をもたせるものが良いと思います。授業方法は、主に生徒間における議論を換気

するようなものなら何でも良いと思います。ただ、講義形式の授業だけは絶対にやめてほしいです。このような実学において、教師が大人数を相手に一人で喋る自己満足の授業は愚の骨頂だからです。生徒一人一人に考えさせ、話させ、積極的に彼ら自身の自発性によって作られる授業にしてください。

- ・鳥のことをもっと知る授業がほしい。奄美だけでなく、種子島や屋久島など他県の方々にしっかり魅力を自慢できるような県民が増えてほしい。
- ・災害時に地域のリーダーとして動けるよう、防災に関する講義が増えれば良いなと思っています。津波だけではなく、河川の氾濫や地震など、知識を身につけ実践に繋げる授業。
- ・火山や離島など、鹿児島島の地形や環境についてもっと共通教育で学ぶ機会を増やすと良いと思う。桜島など九州の火山群や地震など地質学を扱う講義、桜島の火口近くに行く講義、桜島や始良カルデラについての知識は全学部学ぶ必要があると思う。
- ・鹿児島島の歴史上の人物、偉人について、その生き方や名言など。
鹿児島島の方言、観光、特産物(黒鴨、黒豚、黒酢、焼酎など)や伝統産業(工芸)などについて(映像を使ったりして)学ぶ授業、それに関して学生などの若者がどのような活動をしていくかの講義。
- ・地域関連の授業は、現在は理系科目が多いので、個人的には地域による性格や行動、考え方の違いなど、心理的な面から地域特性を考える授業があってもおもしろいと思う。
- ・せっかく自然や産業に恵まれた土地なので、一方的な講義という形式では何も深まらない。環境問題や地域の課題を理解するために、アクティブラーニングや課外活動を導入するなりして活発な議論を誘発して今後の展望及び課題解決策を示してこそ地域のためになれる。現行のものは地域のために何の役にも立っていないばかりか押し売りのようにすら感じられてしまう。
- ・現在もあるが、農家民泊などの実際に現地に行き、学ぶ講義はこれからの人生においても役に立つと感じたので、増やすか募集人数の増加をしていただきたい。
- ・現在、大学の中だけで学ぼうとしている学生、もしくはその他の方法がわからない学生が多いように感じる。その改善策として、より社会に触れ、社会に踏み込むことが可能な授業などがあると良いと思う。
- ・市役所・県庁など、公務と実際に関わり、自分の肌で地域を感じることを出来る科目(インターンシップ)。(学んだことをいかして、地域の行政、企業、学校等と連携したプロジェクトができればよいと思う)。
- ・初めの何回かで実際に連携をとっている企業の方のお話を聞き、そこから自分の発想を膨らませる。その後、グループワークを中心に意見をまとめていき、企業の方を呼んでグループごとのプレゼン発表をする。
- ・フィールドワークやワークショップのような体験型で主体的に学ぶ方法だと五感を使って地域について理解が深まるため、グループワークなど、どのような形でもよいが、学生主体の講義形態だと面白いと思う。
- ・県外からの学生に鹿児島に興味を持つ入口として、鹿児島で起こっていること(政治でも)をテーマとし、それに対して大学がどのような支援を行えるかについての授業。
- ・そもそも、教育学部でも「地域のための大学」として実施する授業科目を何か開設してほしい。鹿児島島の教育について、特に離島での教育実践を知りたい。大学生と小中学生が交流して鹿児島のことについて体験学習をする授業、小中学生を対象にしたふるさと教育に関連する授業も欲しい。
- ・医学部での授業は医療者の育成という点では地域のための大学として捉えることも可能かもしれないが、例えばチーム医療でも鹿児島における医療機関同士のネットワークを見学するなど地域の現状をより深く学ぶような時間があってもいいのではないかと感じる。地域医療についての授業が共通教育であつたら良いと思う。
- ・鹿児島県の農家や農業法人を訪問し作業体験をしたり、現状や課題について意見交換を行うような授業。
- ・鹿児島大学では焼酎蔵があるので、それをもっと生かした授業を増やしたり、イモについての講義があっても面白いと思う(焼酎の講義の制限人数を増やしてほしい)。
- ・学部での専門性が関わってきますが、動物を扱う授業を行えないだろうかと思います。クリアしなければならない課題は多くあると思いますが、鹿児島は畜産が盛んで多くの企業があります。食の根幹にあるのは動物の存在だと思うの

で触れる機会が増え命の尊さを学べると良いなと思います。

- ・専門科目で例として鹿児島県のものを持つてくるのはいいかもしれない。しかし、私の所属する水産学部では特に他県出身者が多い為、鹿児島のことを学ぶよりも、もっと専門的な内容を学びたい。また、県内出身者が多い他学部の方も知っておいて損は全く無いと思います。また、水産業であれば、実際に魚を見たりできるようなことができればいいなと思います。
- ・どうでもいいと思っているような学生にも興味を持たせるような、少々浅くても面白い講義内容にして欲しい。
- ・まずは教員の教育レベルの向上をお願いしたい。散見されるレベルの低い講師陣では、せっかくの魅力も半減する。
- ・パフォーマンスとならないように、自己満足ではない、地域のことをまずは知り、伝えるということに重点をおいた学びが必要。
- ・世界あるいは日本の各地域と比較した鹿児島の地域活性化の効果を検討し、対策を考え、実際に県の職員の人とディベートする授業。
- ・留学生や鹿児島以外から来た人向けに鹿児島の気候、地理、歴史、特産品など様々な観点から鹿児島を紹介するような科目があってもいいように感じた。
- ・鹿児島にきた留学生の鹿児島での経験を授業内容にすると、鹿児島についてだけでなく留学にも興味を持つきっかけになるのではとおもう。
- ・アフリカのまちづくりについて。
- ・工学部にもっと共通教育の科目の選択肢が欲しい。
- ・ロケット発射施設があるので宇宙に関すること。
- ・今回このアンケートがあるまで「地域のための大学」ということ自体知らなかったので、もっと積極的にそのような授業を増やしていくべき。

注)

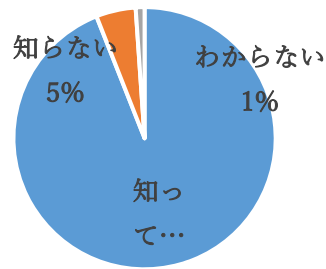
【 】：文科省共通アンケート項目

{ }：鹿児島大学独自アンケート

教員アンケート

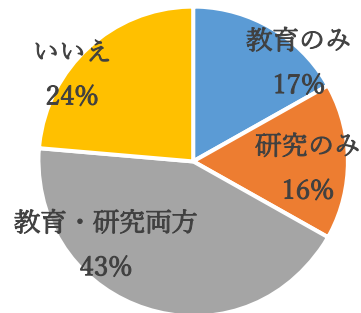
【1】 鹿児島大学が、「地域のための大学」として 地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。

- ①知っている
- ②知らない
- ③わからない



【2】 「地域のための大学」として、地域を志向した教育・研究に参加していますか。

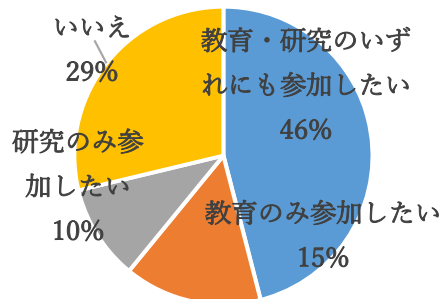
- ①教育・研究それぞれにおいて参加している
- ②教育のみ参加している
- ③研究のみ参加している
- ④いいえ



(上記【2】の質問で「いいえ」を選択した方はご回答ください。)

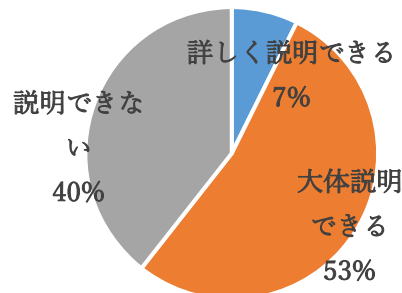
【3】 「地域のための大学」の一員として、今後地域を志向した教育・研究に参加したいと思いませんか？

- ①教育・研究のいずれにも参加したい
- ②教育のみ参加したい
- ③研究のみ参加したい
- ④いいえ



【4】 鹿児島大学のCOC事業（あるいはCOC活動）について学生に説明できますか？

- ①詳しく説明できる
- ②大体説明できる
- ③説明できない



[5] 鹿児島大学のCOC事業（あるいはCOC活動）に期待あるいは要望等があれば自由に記述して下さい。
(400文字以内)

回答総数=67件、下記（主要なもの）

- ・特に無い(複数)。
- ・何も期待していない
- ・中身が全く見えてきません。
- ・どうも「知」と「地」のだじゃれに 慣れない。
- ・がんばってください。
- ・継続して活動して欲しい。
- ・この事業がより、全学部浸透することを願います。
- ・まずは大学の内外に周知をはかることが肝要かと思えます。
- ・教員もCOC事業についてあまり理解していない状況であるように思われる。丁寧な説明ときちんとした手続きを踏んでやってほしい。
- ・教育学部ではあまり、この事業が周知されているように思わない。また、教育学部において、個人やグループで地域に貢献した研究や教育を行っているケースはあるので、そうした取組を取り込んでほしい。
- ・もちよつとCOC事業について、具体的な内容の説明する機会を開催されたほうがいいのかと思えます。
活動は鹿児島大学にとって非常に重要であると思えます。このような事業では、国から予算が来なくなると先細りになってしまうケースも経験しています。予算的に厳しいことは理解しておりますが、今回の活動はかなり地域に密着しており、先細りになって地域から見放されることが無いように、ぜひ、継続できるような方策の検討をお願いいたします。
- ・今後ますます重要になる事業だと思えます。勉強して、参加できるように努力します。
やらなければならない、から自発的かつ自然体で地域貢献(産学連携やCOC事業)に関わる諸事業に取り組める「持続的な仕組み」が必要です。
- ・本来の教育研究に支障の無い範囲で実施すべきだと考えます。
- ・COC+事業との統一的、あるいは強く連携した相補的な活動が必要と考えます。
- ・COCセンターという名称はセンター・オブ・コミュニティー・センターとなり、おかしいように思います。
- ・私自身は大学がCOC云々は始める前から、地域の諸問題に焦点を当てた教育・研究活動を実施しています。
- ・医学部の教員はCOC事業が成立するは遥か以前から、様々な機会を作りあるいは利用して、地域の医師、歯科医師、保健婦、薬剤師、学校教員さらに一般の方々に広く健康に関する情報を提供して、また多くの学生を地域に就職させた。これらにより地域社会に組織的に貢献してきた。他学部の一部教員はこれらの多大な貢献について認識を持たず、自分たちだけが地域の社会活動に貢献しているかのごとく勘違いをしている。COCセンターはもっと医療系のこれらの多大なる貢献を深く認識していただき、評価していただいて、医療系学部の今後の社会活動の支援を行うべきである。
- ・医療分野においても災害対策など重要なテーマと思われれます。より学内・学外に見えるような活動になることを期待します。
- ・COC活動の中に、地域医療的な部分(鹿児島大学病院との連携、県庁等との連携)の事業に期待します。
- ・COC事業・活動についての理解や変化の状況を折あるごとに深め、確かめながら、それぞれの教育現場で、教育や学習上の相乗効果を生み出せるよう、最善を尽くしていければと思います。
- ・COC事業では各課題の成果に対するフォローアップはどのように行っているのでしょうか？産業化の目がある課題に対して継続して研究の支援を行うシステムがあれば、鹿児島の特産品のアピールに繋がるのではないかと考えます。
- ・COC事業は、地域貢献を標榜する本学としては、根幹に関わる極めて重要なプロジェクトであるので、国による5カ年の補助期間を過ぎた後も、副学長クラスのセンター長による強力なイニシャチブで継続して行って頂きたい。

- ・Q「地域のための大学」の一員として、今後地域を志向した教育・研究に参加したいと思いませんか。の回答は、「本当に地域のためになると確信できたなら」という条件付きで「教育・研究のいずれにも参加したい」です。
- ・かごしまCOCセンターの役割の一つである、県内自治体から大学に対する要望の受け皿としての機能(ワンストップサービス)が充実し、学内においてもCOC事業の認知度が高まってきていると感じられる。こうした機能を文部科学省の補助事業終了後にどのように受け継ぎ、発展させていくかが重要であるので、この点について大学執行部が十分に認識し、全学的な検討が進められることを期待する。
- ・COC事業単体だけの議論ではなく、人事、組織、財務といった全学的観点で教職員や学生にインセンティブが発生するような仕組み作りへ着手する時期が来ていると感じます。地域貢献に取り組んだ教員が疲弊する(今では疲弊が強いと感じます)のではなく、喜びと発見を得る—そのような大学へと変革をしていくように、現場から意見・アイデアを述べて行くこと、そして実践をしていきたいと考えています。”
- ・火山と島嶼という地域的特性は鹿児島県の不利な点でもあり、またうまく活かせば利点ともなり得ることは誰しも認識しているところである。それを地域再生プログラムに結びつけようとする事業には、頷ける面も多いが、形式的に作業実績を作っただけという印象の項目も見受けられる。良好な成果を強調するだけでなく、不調に終わった作業についてもありのままの報告と原因分析を公表してもらいたい。
- ・教員が個別に行っている活動をもう少し拾い上げてもらえれば、COC事業に貢献できるのではないかと思います。あと、産学連携を通してでも構いませんので、情報共有あるいは情報交換出来れば、その個別の活動に幅を持たせられるのではないかと思います。
- ・教員同士の連携や学生主体(教員の指導や補助を受けながら)のプロジェクト等も活発にできるような環境を整えてほしい。
- ・具体的な成果についてまとめる機会があったほうが良いと思っていたので、今回のようなアンケートはとても良いと思う。
- ・県内への卒業生の輩出、時間はかかると思いますが、地域の課題に対して継続的な助言や支援ができるしくみづくりに期待します。
- ・鹿児島大学が「地域のための大学」として教育や社会貢献を推進していることは十分承知している。文科省のCOC事業とCOC+事業の両方を行っているようだが、両者の連携、区別などについては、学内に十分周知されていないと思う。その点についてコンプライアンスを持って学内教職員、学生に広く理解させるべきである。
- ・これからの大学は、学問を追求し深める場であるとともに、その研究成果を社会還元する役割の両者を担うことが求められると思っていますので(これまでは後者が弱かった気がします)、本事業が学問と実生活との関連を人々にアピールするきっかけになることを期待しています。
- ・すぐに見える成果ではなく、「長い目で見ると成果があったよね」といえる活動の成果を評価できるとよいのになあと感じています。
- ・センターのサイトははじめ折々送られてくる報告や案内等ではどうしても理系の学問が主なイメージである印象が強い。「観光」「島嶼」分野のトピックとしては鹿児島ゆかりの作家や文学、音楽家、画家なども十分に研究対象となりうるだろう。歴史学・地理学などを中心に、文系の研究者の参画もすでに行われていることと思うが、より柔軟に「地域」というテーマをとらえて種々のテーマやそこから派生する様々な連携の可能性を、まずはセンターから積極的に、具体的に、発信していただければ、こちらも出来る限り応じたいと思う。
- ・鹿児島大学としてCOC事業を行っていることの意味と内容が、入学希望者にも分かりやすく伝わる工夫をしていただくと、入学生の進路選択にプラスとなる。
- ・取り組み趣旨はよく分かりますが、大学全体として関係部署等が役割分担をしながら取り組んでいくという仕組みが出来ていない。責任を持たされた組織がそれぞれ別々に必死で取り組んでいるような方式は、今後は改善すべきであると思う。突き詰めれば、大学当局の見識が問われているのです。
- ・新たな事業を始める場合には、スクラップ&ビルドの原則に則って、必ず、それまでの各事業の労力から新事業とほぼ同じ分量を削減(スクラップ)してから始めて欲しい。この間の法人化による多忙化の上に、特に法文系では改組によ

る多忙化も加わって、教職員とも過重労働のために、現職での死亡(ちなみに昨年3月～今年2月までの1年間での現職教員死亡者数が3人で、それまでの30年間と比べて約100倍の超高率になっている)、病気辞職、病気休暇、休職等が増加しているからである。このような事態は、管理責任も問われるのではないか。

- ・正体不明の事業であるという感覚はやはり拭えません。この事業が大学の生き残りをかけて必要な事業であることはわかりますが、①地域としての鹿児島県あるいは鹿児島市への実質的な貢献、②住民の幸福度の向上、③地域の再生あるいは再創造とどのような関係を有しているのか、また関係を保っていかようとしているのかいまいちはっきりしません。明確なビジョンが学内職員に伝わりにくい(あるいは伝わっていない)という点では、地域や住民にとってはなお一層のことです。地でも知でもどちらでもいいですが、立地する地域社会への真の貢献と大学と地域とのこれまでにない関係づくりが本当に進むのか、疑問と不安があります。税金でおこなう事業である以上、関係当事者みなが明るく元気になるようなものであることを願います。単なる予算消化と予算終了後の事業の不連続へと結実しないことを心から望みます。
- ・大学が目指す地域貢献は特に地域行政を担当する機関も交えた公共的な交流事業・共同(あるいは受託)研究などが主と理解しています。一方で、水産学部のような産業学部が取り組む課題の場合には、各教員が漁業者や水産系企業と直接コンタクトを取って共同研究等に発展させている場合が多いと思います。教員が個別あるいは小グループで実施している地域貢献志向の研究事業等を調べ、前述の、大学が目指す地域貢献に合致する事業を大学として支援していただければ、研究者も心強く、さらにやりがいを感じつつ業務に励めると思います。ただし、個別で行っている事業には、国の補助事業であっても、支援対象が狭い範囲(人や地域)の受益者である場合も多いので、選択する必要はあると感じます。
- ・大学以外の産官の参加が、大学の予算に乗っかっているだけの受け身に思われる。このままだと予算が切れたら終わり、成果に継続性のない、よくある国プロ補助金事業に終わる。もっと就職先を斡旋させるとか、共同研究費を出させるとか、場合によっては寄付講座を作らせるとか、大学にも利益を誘導できるようにするべき。
- ・知の拠点となるべく、資格制度などを各分野で設立し、大学は講習など教育の提供と資格審査をする場になると良いと思っています。
- ・地域との交流は常に維持しているが、「火山と島嶼を有する鹿児島の地域再生プログラム」に直接参加していなかったのかわからない。
- ・地域に根差した鹿児島大学にとってもっと推進すべき事業と思われる。一方で、鹿児島大学は国立大学であり、県立ではありませんから、国全体、ひいては世界にも貢献しそうな研究成果については、その後の発展を推進するためにNEDO, JST, AMEDなどの国家レベルの大型予算獲得に繋がる支援をお願いしたいと思います。
- ・地域の活性化は、第一に重要な課題だと考えます。その意味でCOC事業は部局と協力はなく上に位置しなければ機能しないと考えます。その上で法文学部は観光学部(人文→観光資源、経済→観光経営、地域社会...)に、近畿大学が名を高めたマグロやナマズのように地域に根ざす農水産学部はより地域活性化を目指した学部へ転換し、40名未満の小さな組織は廃止して人的資源を他県の大学にない特色ある部分に集中して貰いたい。
- ・地域産学官とのさらなる連携強化、共同研究の推進。
- ・地元からの入学生増加、卒業生の地元就職、地元行政・企業との連携、地域住民へのサービスと、貢献内容が地元に向けた「発信」に偏り過ぎていると思う。地域の情報を全国や国外に発信できればそれは立派な地域貢献ではないのか？
- ・県外出身生が、出身県にもどって、地元貢献するのも、地元貢献ではないだろうか？
通常業務で既にオーバーフローしており、實際上、本事業に関与できないのが残念です。通常業務の改廃を先に進めないと、難しいと思います。
- ・得られた成果はどのように活用されるのでしょうか？得られた成果をさらに発展させるために、COC事業はどこまでサポートをしていただけるのでしょうか？
- ・農学部の地域プロジェクトとの連携を進めてほしいと思います。

- ・平成26年度に採択された割には、認知度、先進性、発展性、研究面におけるフィードバック等が明確でなく、一体、どのベクトルに向っているのかわからない。
- ・本来大学での研究、教育は直接地域に関係しない、あるいはすぐには成果が還元できない(見えない)分野も多いはず。基礎研究をはじめとして、そうした分野の活動が「地域、地域」の大きな掛け声の中で埋没しているような印象すら受けます。
- ・(1)地域だけで終わる事業にするのではなく、地域を拠点として世界に発信できるような事業にしていければいいのではと思う。(2)地域の教育活動という観点で事業をするのであれば、鹿児島県内の高校生が地元の鹿児島大学に興味を持ち、県外に人材を流出しないような教育活動(県内の進学校への訪問など)をもっとするべきではと思う。(3)研究活動については、火山など単に鹿児島県にしかないキーワードが含まれるから事業を推進するというふうにならないように活動をするべきだと思う。
- ・例えば、世界的にやられていないことを若い教員が鹿児島大学でして、かつ、他大学に行ってもできないという基礎研究を事業として推進あるいは地域に発信すれば、高校生も鹿児島大学に興味を持って集まるなど、地域・社会貢献になるのではと思う。
- ・COC,COC+ 事業であまりにも「地域」や「地域との連携」が強調されていると感じます。これにより、他県の高校生が本学を志願しにくくなる、あるいは「地域」に直接関係ない分野を学ぼうとする県内の高校生が県外に流出することが危惧されます。
- ・また「国際性に欠ける」というような誤った大学のイメージが独り歩きしないでしょうか？
- ・COC の予算配分方法がおかしい。
- ・責任者が自身に手厚く配分する様をみていたら、COC 事業に関わりにはなりたくないと感じます。
- ・研究費を受けた教員がどの程度鹿児島大学 COC 事業の理念に合致した成果を挙げているのかをもっと詳細に追跡し確認したほうが良いと思う。
- ・成果のた研究に対して研究の持続、発展をどのようになっているのでしょうか？

注)

【 】：文科省共通アンケート項目

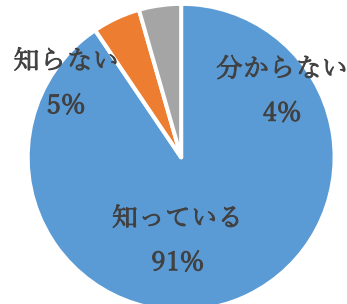
〔 〕：鹿児島大学独自アンケート

職員アンケート

全職員対象

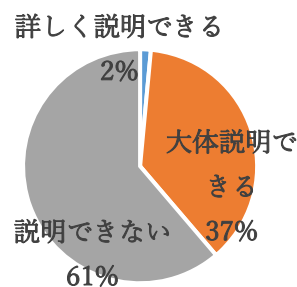
【1】鹿児島大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。

- ①知っている
- ②知らない
- ③分からない



【2】鹿児島大学のCOC事業（あるいはCOC活動）について学生に説明できますか？

- ①詳しく説明できる
- ②大体説明できる
- ③説明できない



【3】鹿児島大学のCOC事業（あるいはCOC活動）に期待あるいは要望等があれば自由に記述して下さい。（400文字以内）

回答総数：49件、下記(主要なもの)

- ・特に無い(複数)
- ・成果が出てくるには時間が必要なのかも。
- ・県内の活性化のきっかけになって欲しい。
- ・もう少し広報してほしい。
- ・COC事業が具体的に何をしているか知らないなので、もっと周知・アピールしていただければ、目にとまる機会も増え、関わりたいと思う職員等も増えてくるのではないかと思います。
- ・COC事業とCOC+事業の違いについて、もっと周知すべきかと思います。
- ・4地域に限定せず、活動してほしい。
- ・まだ一部の人にしか浸透していないので、もっと告知だったり、地域のイベント等にも出席したりして認知度を上げてほしい。
- ・火山と島嶼を有する鹿児島の地域再生プログラムを検索しても、適切なウェブページが見つからない。論文や特許の成果一覧等が随時更新されているウェブページを用意したほうが良い。

- ・桜ヶ丘キャンパスには何をしているところなのかすら伝わってこないの、何を期待すればよいのかもわからない。
- ・できる限り予算の一元管理・執行を行って欲しい。
- ・学外の方には全く浸透していないのでは？
- ・活動内容やその結果について、学内外へわかりやすく、もっとPRしてほしい。
- ・COC事業におけるさまざまな取り組みが何か1つでも地域活性につながることを期待しております。
- ・COC事業により、鹿児島県が活性化することを期待します。
地域に向けた貢献について学内でも様々な部局・部署が関係していると思いますが、統括的な活動を期待しております。
- ・鹿児島を元気にしてほしいです。鹿児島の魅力を発信できる学生に各地で活躍してもらえたらうれしいです。
- ・鹿児島大学構内だけでなく地域に出向き、鹿児島の特性を有効に使いながら地元に着目した取組が行われることを期待します。
- ・地域貢献、産学連携活動を推進する社会貢献機構及び研究推進部への適切かつ十分な資源(マンパワー・予算)配分と活動の活性化に期待したい。
- ・地域貢献に取り組むことに対し、私も積極的に参加・協力したいのですが、どのような形でどのように協力できるのか、方法がわかりません。
- ・本学のような地方大学にとって、COC事業の取組は非常に重要であり、大学活動の核となる取組であると考えているので、今後も発展的な取組を期待している。ただ、取組内容や事業の成果については、こちらから探しに行かないと情報収集できないので、学内外への情報発信についてはさらに充実すべきであるとする。また、事業の成果について、数値データ等で見える化することが可能であれば、情報の受け手としては活動内容をより理解することが出来るのではないか。
- ・地方の大学として、地域貢献は大きな役割だと思う。積極的に県や市町村、あるいは地域の産業界と情報交換をして、連携を強化すべきだと考える。
- ・より連携を深めることで地域貢献大学としての存在意義を主張できる。”
- ・産学官民金と活動の幅を広げていくことを期待しています。
- ・鹿児島だけでなく南九州の地方創生のリーダーシップをとっていけるような活躍を期待しています。
- ・鹿児島大学の存在感を県内だけでなく、全国に示せるような取り組みを期待しております。
- ・今後は補助対象の3市町村だけでなく、県下全域の地域課題に優先順位を付し、地域との協同による実績を重ねることが肝要。
- ・COC事業を通じた学生への啓発活動だけでなく、学生自ら地域活性化に参画し(失敗も糧にしながら)方策を具現化することで、地域への愛着が湧き長期的に地域活性化に繋がると思います。前提として相対的にみた鹿児島の特徴把握や地域産業の振興などあるかと思いますが、本事業が地域と大学の活性化の一助となることを期待いたします。
- ・教育部門及び研究部門の活動が、地域・社会への繋がりへと地元の人たちが目に見える形が大事で有り、難しいところと思われる。
- ・学部等での取組を全学的(網羅的)に把握し、プロジェクト展開や学生(団体)への支援策など、地(知)の拠点として大学の特色がでるような事業になることが望ましい。
- ・大学における知の拠点として、国の最重要課題として位置付けられ、さらには女性活躍推進法にかかる行動計画にもあるように、男女共同参画意識醸成ができ、ダイバーシティ感覚を持つこともでき、さらには女性へのエンパワメント機会も作っていただくことが、男女共同参画社会実現可能な人材による地域貢献につながると思います。ご検討をよろしく願いいたします。
- ・教育・研究・社会貢献において、企業や地方自治体などの「地域連携のワンストップ窓口」として十分に機能していると思われる。規模の大きさなどから複雑な組織体系となっている本学と外部の方がコンタクトしやすくなったという点だけでもその効果は大きいと感じる。

- ・部署違いかもしれませんが(広報関係?)が、一般市民から科学に関する個別質問が総務系係に寄せられることが多い(「～に詳しい先生の意見を聞きたい」、「息子の自由研究のため～に関することを教えてほしい」などインターネットや図書館等で個人でも簡単に調べられる内容のものが多い。手紙等文書はまれで電話口頭のものが多い。)ので、これらの対応を一括して受け付ける窓口が必要ではないでしょうか。一般個人の安易な疑問・質問に無料で即時対応することが「地域に開かれた大学」を意味するとは思えませんが、現状では受け付けた案件はどの学部も基本的に100%対応しているようです。そもそも対応すべきどうかを取捨選択し、必要に応じて関連研究者と連絡をとらせる、というような対応をどこかの窓口が一括して引き受けることになれば全体としての業務効率も上がると思われます。
- ・主に在学生向けへの事業かと思いますが、本学に志願及び入学する受験生に対してからも、地域人材育成を後押しする材料として鹿児島県の育英財団等が提供している「奨学金制度(将来県内で活躍するための人材育成制度)」等をCOCセンターとしても推奨していただきたい。受験生に対して入学する前から意識してもらうことで、本学及びCOCセンター理念にも繋がり、将来的に県内への帰属意識を醸成する施策になると思われる。
- ・県内外の学生さんに鹿児島の事を知っていただく必要がありますので、1年に1回(可能であれば半期に1回)、地域見学、企業見学などで現場を見る機会を増やすべきだと思います。他大学では、新入生のオリエンテーションで工場見学をしたり、単位の一環で施設見学があったり、学外を見る機会を設けているところが多数あるようです。これは、地域に目を向けるという意味もありますが、就職活動に直結しますし、学生のモチベーションを高めるためにも有意義なことだと思います。
- ・多くの学生が鹿児島を学び、学生がリーダーシップをとり、鹿児島が活気づく地域になって欲しい。
多くの若者が鹿児島県で働き、生活して欲しい。
- ・鹿児島大学は、地域防災の高度な研究がなされており、土砂災害、噴火、地震等の災害時にも地域に大きく貢献している。そのことを地域の一部の方々しかご存じないように思う。一般市民を対象にしたフォーラムや広報活動をこれまで以上に推進してください。
- ・奄美大島の野猫対策に取り組まれておられますが、奄美大島だけでなく、鹿児島県全体の野生生物(野鳥等)を護るためにも野良猫対策に取り組んでいただけたら助かります。猫は野生生物ではなくペットですから、犬のように条例をつくって登録制にして室内飼育に努めるべきであると思います。
- ・27年度フォローアップアンケートの結果を拝見しました。「COC事業(あるいはCOC活動)について学生に説明できますか。」という問について、教職員ともに「できない」と回答した人数が多く、とりわけ職員の「できない」比率が高かったです。あまり好ましい結果ではないと思うので、改善されればと思います。

注)

【 】: 文科省共通アンケート項目

〔 〕: 鹿児島大学独自アンケート